

【別紙2】

経営比較分析表

島根県 大田市

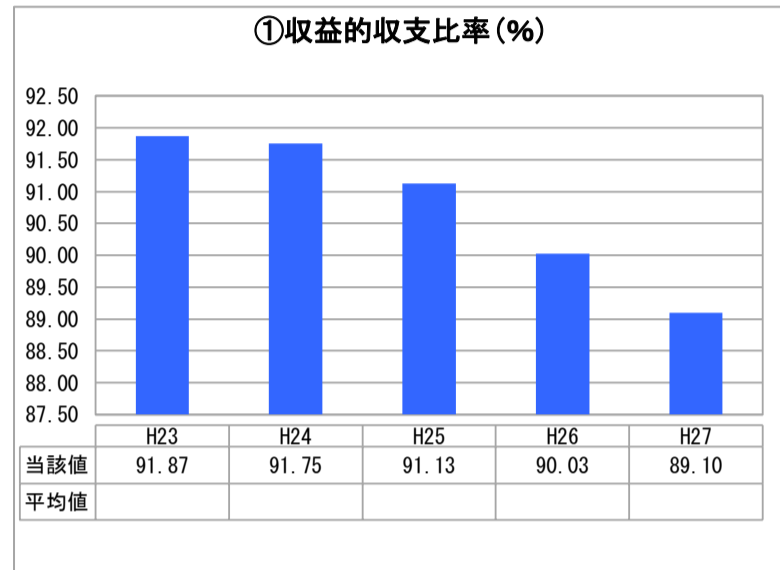
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	20.83	100.00

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
36,668	435.71	84.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,587	427.37	17.75

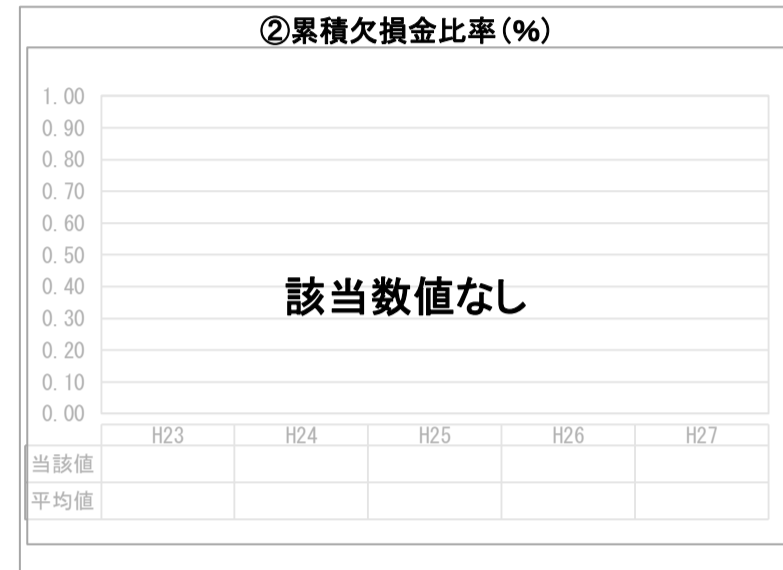
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



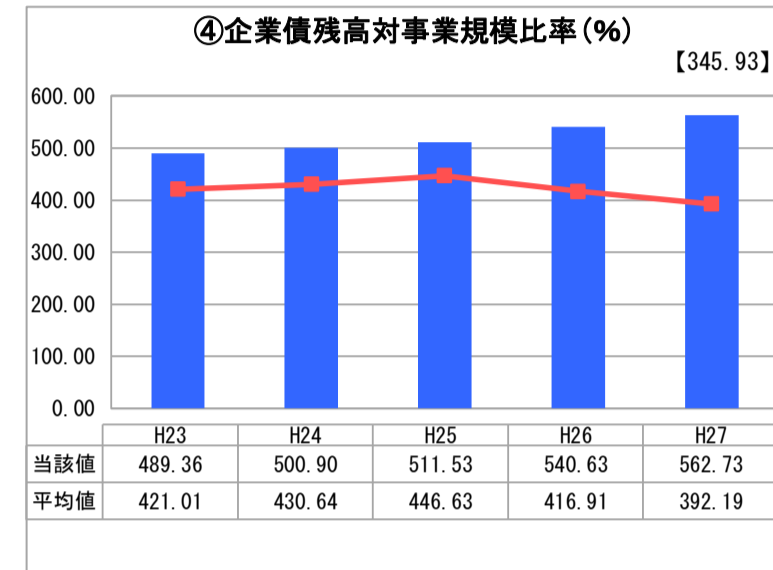
「単年度の収支」



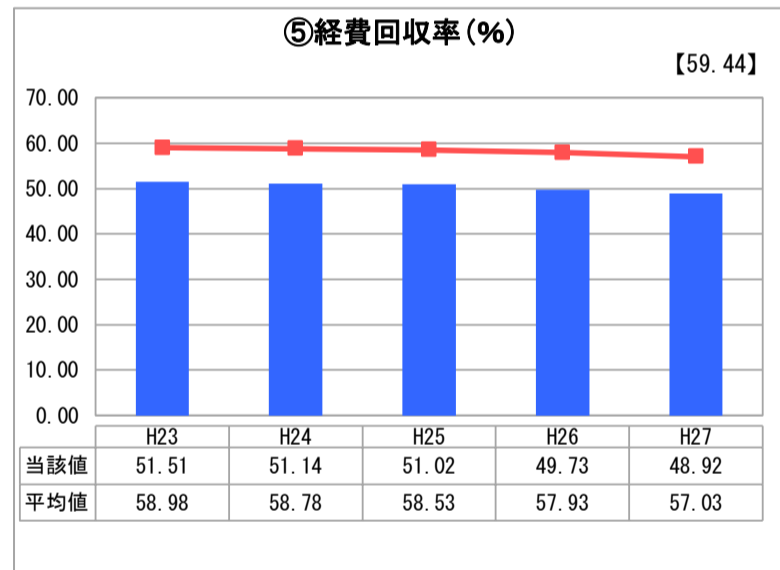
「累積欠損」



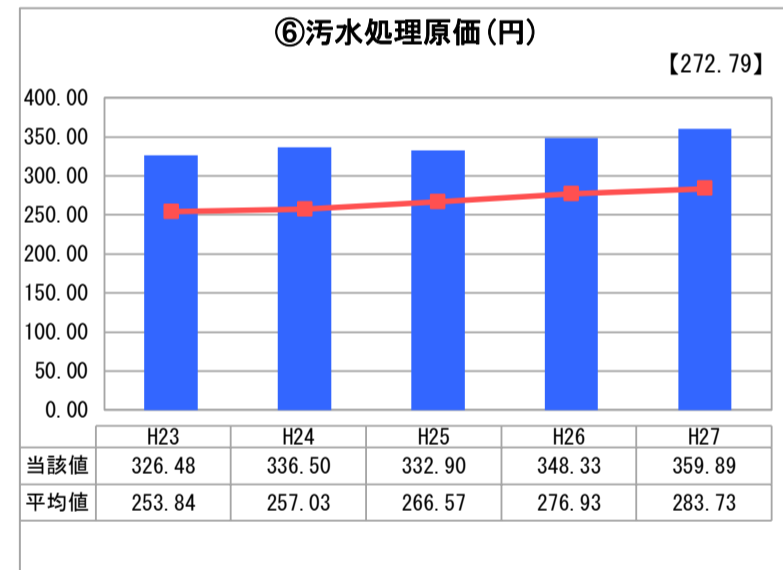
「支払能力」



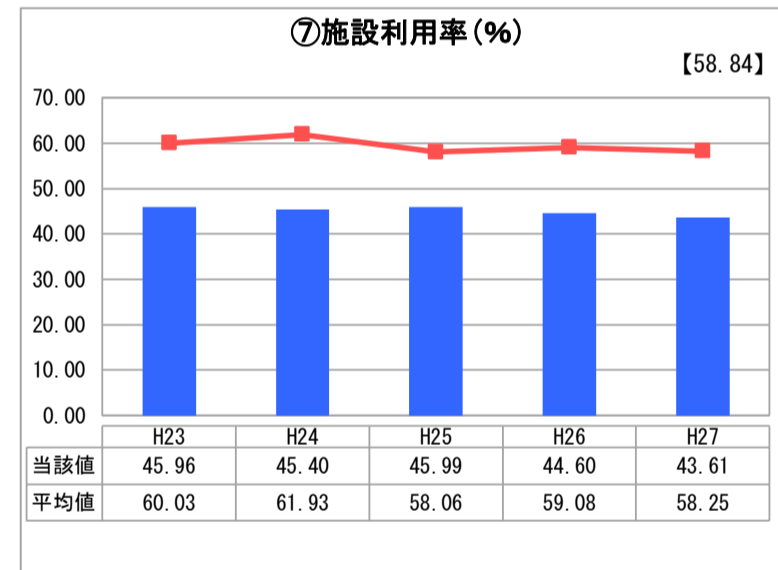
「債務残高」



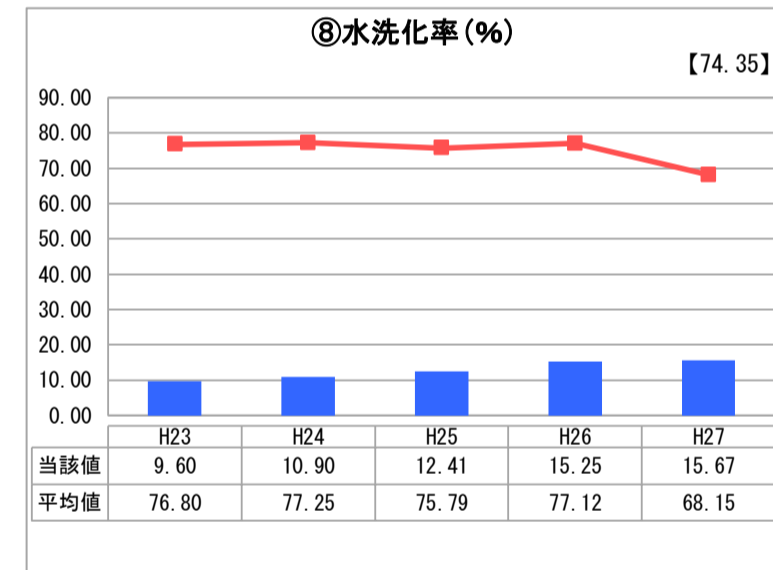
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

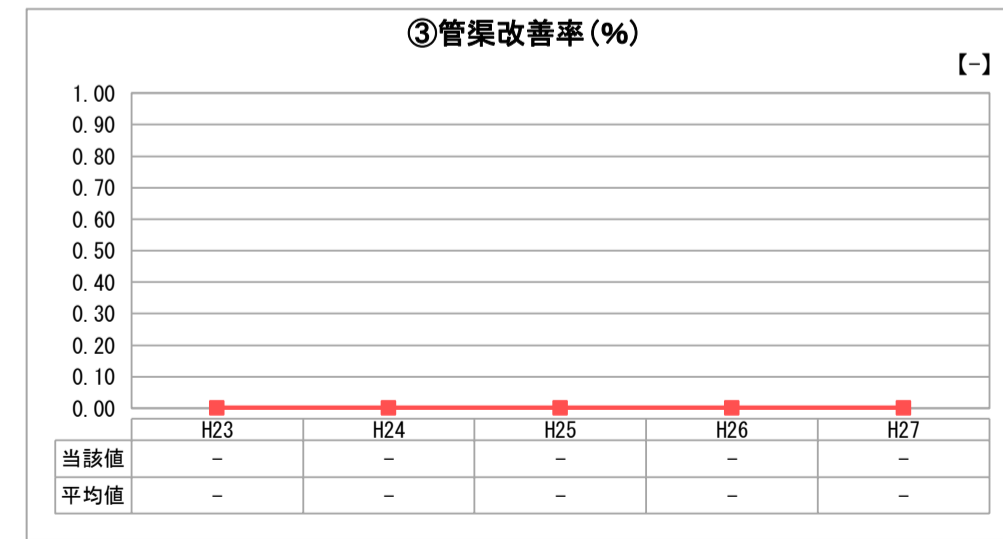
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 収益的収支比率は100%を割り込み、年々悪化傾向にある。浄化槽設置基数の増加により総収益は増加傾向にあるものの、基数増加に伴う維持管理費等の費用の増加分を賄うことが出来ず、一般会計からの繰入金に対する依存度は年々高くなっている。

④⑤⑥ 企業債残高対事業規模比率、経費回収率、汚水処理原価についても平均値を下回っており、費用に見合った収益が得られていないことから収益的収支比率と同様に各指標とも悪化傾向にある。

⑧ 供用開始後間もないことから、水洗化率については平均値を大きく下回っている。

2. 老朽化の状況について

平成15年度の供用開始後、12年が経過したところであるが、現在のところ浄化槽本体の更新については必要性は低い。しかし、付属機器の修繕費用は増加傾向である。

全体総括

経営の健全性・効率性に関する指標について、すべて平均値を下回っており、水洗化率以外の指標には年々悪化傾向にある。今年度策定の「経営戦略」により今後、投資の効率化や維持管理費の削減、適正な使用料収入の確保といった経営の健全化について検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。